

## 第86回触媒化学融合研究センター講演会

本講演会は、文部科学省の「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」として、筑波大学が代表機関、産総研が共同実施機関として運営している「大学×国研×企業連携によるトップランナー育成プログラム」の支援により実施されます。

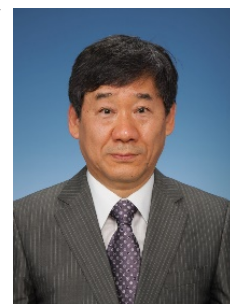
多くの方々のご参加をお待ちしております。

### 紙オムツから防弾チョッキまで： 役に立つポリマー／ポリオレフィンを創る

#### <講師>

中部大学 先端研究センター  
NEDO技術戦略センター フェロー  
元・三井化学(株)取締役 研究本部長

#### 藤田 照典 特任教授



日時：2021年11月26日(金) 15:00～16:30

場所：産総研第5事業所 第2本館

第3・4会議室(5-2 6602・6603室)

ポリエチレン(PE)やポリプロピレン(PP)に代表されるポリオレフィンが合成されてから60年以上が過ぎた。PE・PPは、軽量かつ安価であり、さらに優れた物性と加工性を併せ持つことから、ガラス・金属・木材に代わる新材料として発展してきた。その用途は、紙オムツ、食品用ラップ、シャンプーのボトル、文房具、収納ケース、ランター、水道管、車のバンパー、漁網、輸液バッグ、人工骨・関節、防弾チョッキなど多岐に渡り、現在においても拡大を続けている。この用途の拡大を支えてきたのが、エチレンやプロピレンなどのオレフィンを重合させる高性能触媒の開発である。本講演では、ポリオレフィンの発展の歴史を触媒開発の視点から紹介したい。